

一般国道32号
いのはな
猪ノ鼻道路
事後評価

令和7年12月5日



国土交通省四国地方整備局

1. 事業の目的と概要

■ 事業目的

- 猪ノ鼻道路は、異常気象時の通行止め解消、連続する急勾配やヘアピンカーブの回避、冬期の凍結・積雪による通行障害の軽減により、安全で信頼性のある交通機能を確保するとともに、徳島県西部地域と香川県西部地域の連携強化を目的とした事業。

■ 事業経緯

- 令和2年度に完成2車線で開通
- 平成22年度に、『防災面の効果が特に大きい事業』として、B/Cの評価によらない事業に選定

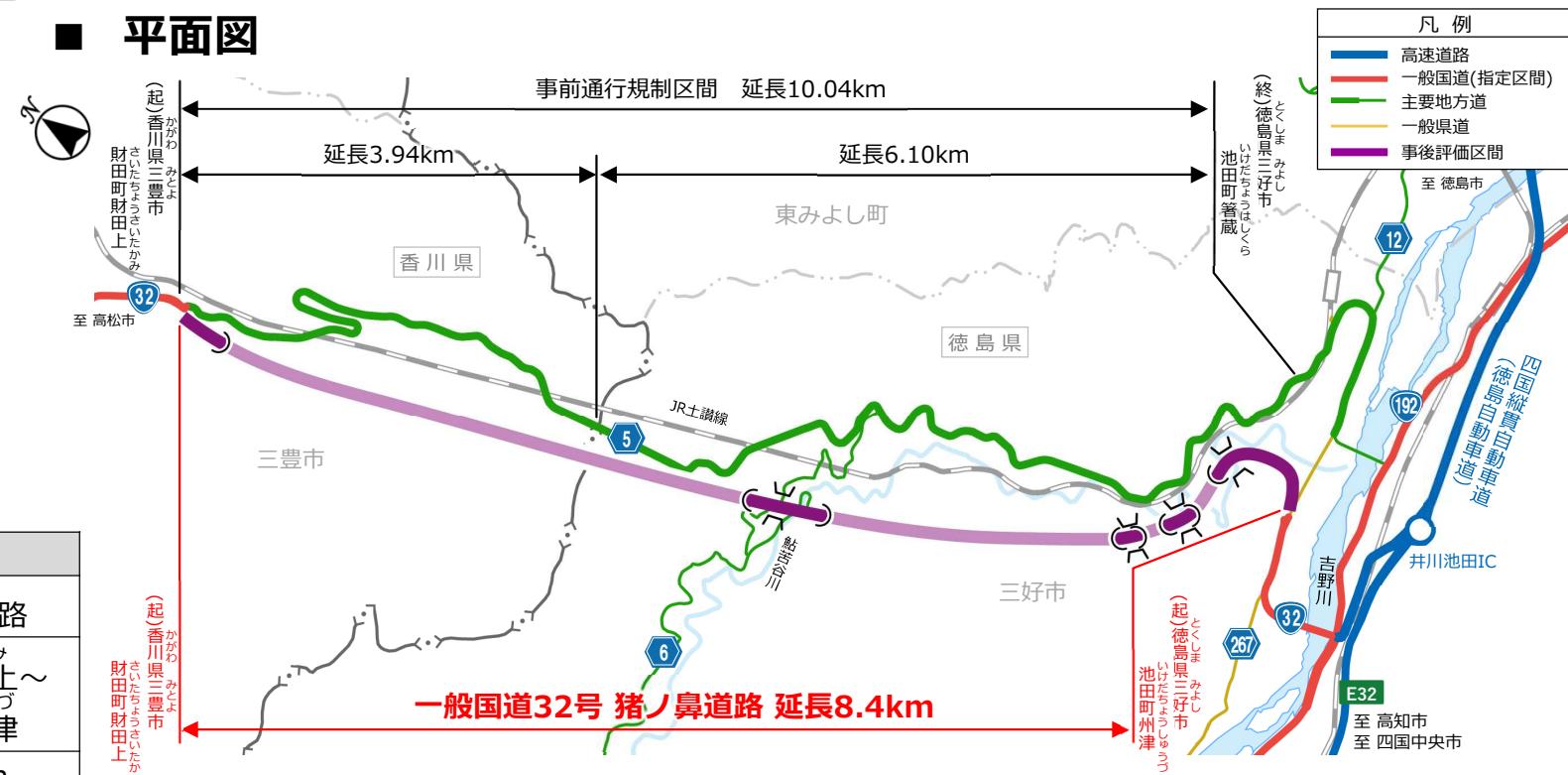
■ 位置図



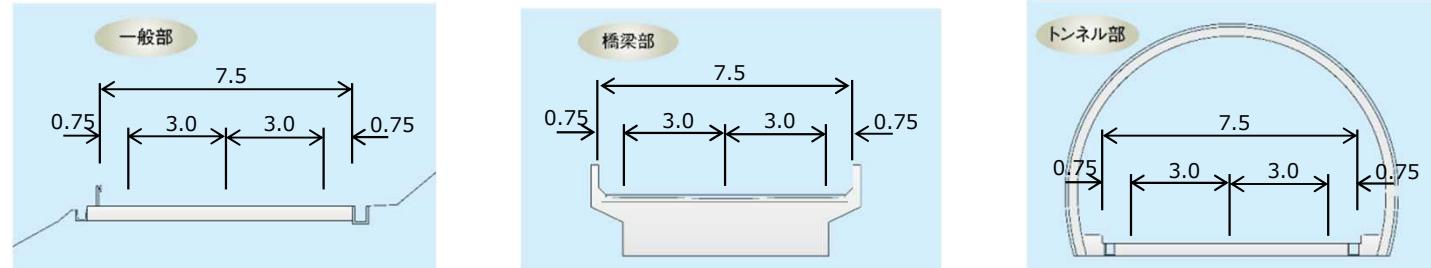
■ 計画概要

項目	内容
事業名	一般国道32号 猪ノ鼻道路
起終点	香川県三豊市財田町財田上～徳島県三好市池田町州津
延長、幅員	延長8.4km、幅員7.5m
車線数	2車線
構造規格	第3種第3級
設計速度	60km/h
事業の経緯	事業化 平成15年度 用地着手 平成19年度 工事着手 平成19年度 開通年 令和2年度(令和2年12月13日)

■ 平面図



■ 標準断面図



2. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

■ 前回評価と開通後の比較

<一般国道32号 猪ノ鼻道路>

	前回評価 (H28年度)	開通後 (R2.12開通)	変化及びその要因
道路構造等	第3種第3級 60km/h 延長8.4km 完成 2車線	第3種第3級 60km/h 延長8.4km 完成 2車線	変化なし
総事業費	約432億円	約387億円	残土処分場の変更、トンネル支保工パターン変更等によるコスト縮減。
交通量	－ (R12将来推計値) 6,900台/日 ^{※1}	6,400台/日 ^{※2} (R22将来推計値) 5,800台/日^{※3}	・前回評価時(※1)は、H17全国道路・街路交通情勢調査ベースでの将来 (R12) 推計値 ・開通後(※2)は実測値 (R7.10.21 (火)) ・参考値(※3)は、H27全国道路・街路交通情勢調査ベースでの将来 (R22) 推計値
事業期間	平成15年度 ～令和2年度	平成15年度 ～令和2年度	変化なし
事業の効果と費用			
事業の効果	451億円	233億円	基準年の変更 費用便益分析マニュアルの改訂 将来交通量の減少 並行現道における走行速度の上昇に伴う時間短縮効果の減少
費用	398億円	617億円	基準年の変更 維持管理費の増加

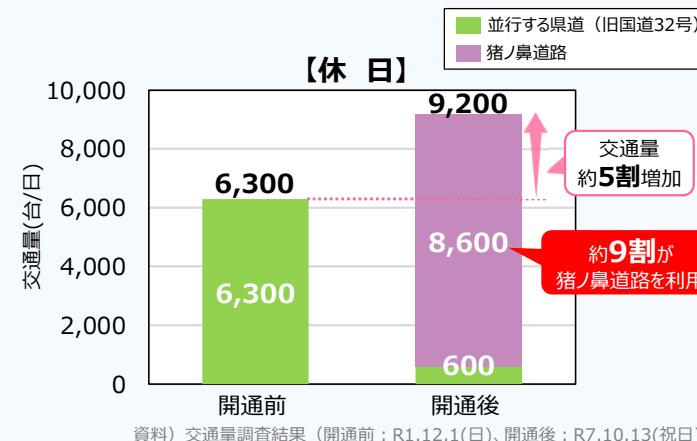
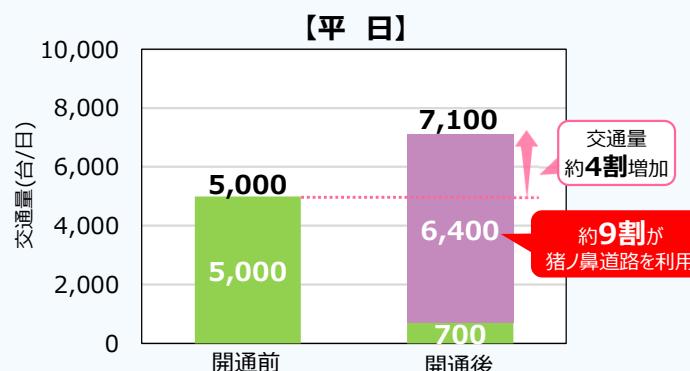
3. 利用状況

- 猪ノ鼻道路整備後の断面交通量は、平日が約7,100台/日、休日が約9,200台/日。
- その内、猪ノ鼻道路は、平日・休日共に約9割が利用。
- また、開通前と比べて断面交通量は、平日で約4割、休日で約5割が増加。

■調査断面位置図



<交通量の変化>



利用状況



4. 事業効果の発現状況（1）事前通行規制区間の回避と緊急輸送道路の信頼性向上

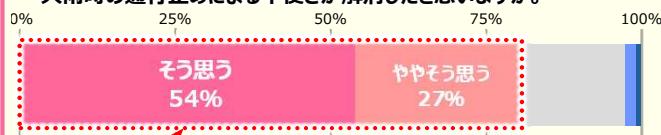
- ・事前通行規制区間や災害危険箇所を回避する新たなルートの形成により、災害に強い緊急輸送道路が確保され、道路利用者の約8割の方は、大雨や災害による通行止めの影響が軽減され利便性や安心感の向上を実感。
 - ・災害時に物資・資材の安定した輸送や住民の避難経路として活用することで災害地域の早期復旧に貢献。

＜事前通行規制区間と災害危険箇所の位置＞



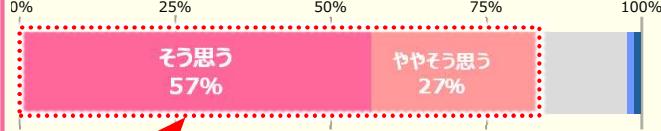
【道路利用者の声（利便性・安心感）】

▼事前通行規制を避けて通行できるようになり、大雨時の通行止めによる不便さが解消したと思いますか。



約8割が
不便さの解消を実感

▼災害危険箇所を避けて通行できるようになり、
異常気象時においても安心して走行できるようになったと思いますか



約8割が
安心した走行を実感

大雨時の通行止めや災害の影響を心配をすることが無くなったので便利になりました。

資料) Webアンケート調査(R7.8) 400名の回答

＜大雨時の通行止め実績＞

事前通行規制区間	
規制日時	原因
H5.9.3 23:00～ H5.9.4 6:00 約7時間	台風13号
H23.5.29 21:20～ H23.5.30 6:40 約9時間	台風2号
H30.7.6 23:20～ H30.7.7 19:30 約20時間	低気圧 豪雨

資料) 通行規制記録(R7.4時点)

▼事前通行規制の様子

写真①

〈災害時の通行止め実績〉

並行する県道（旧国道32号）の区間

写真②



H16.9.30

写真③



H16.12.6



路肩崩壊（台風21号）
約**13.3**時間



法面崩壊(低気圧による豪雨)
約**97.4**時間

資料) 通行規制記録(R7.4時点)

【自治体関係者の声】

- 猪ノ鼻道路はトンネル主体の構造のため、豪雨や積雪等でも通行障害が少なく、緊急輸送道路としての継続的な機能を果たしている。

 - ・災害時には、物資・建設資材の安定輸送手段や住民の避難経路として活用され、災害地域の早期復旧に貢献できる。
 - ・旧国道32号の寸断時にも交通のリスクが分散されるため沿線集落の孤立防止、また三好病院（三次救急医療機関）への搬送時間短縮にも貢献できる。

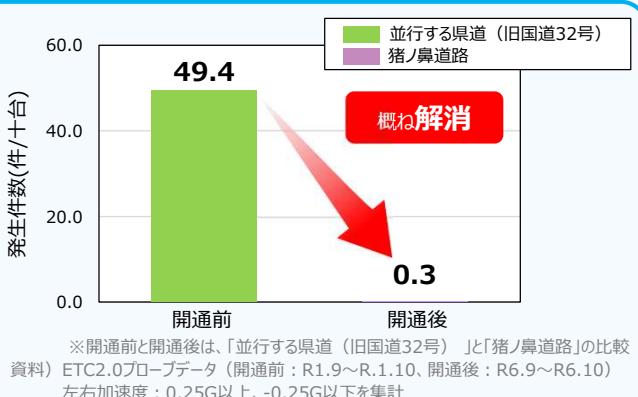
4. 事業効果の発現状況（2）線形不良箇所の回避による安全性の確保

- 急カーブを回避する新たなルートの形成により、急ハンドルが概ね解消、死傷事故が約8割減少しており、道路利用者の約9割の方は、並行する県道（旧国道32号）と比べて快適かつ安全に走行できることを実感。
- 物流事業者は、ドライバーの安全性の確保や運転負担の軽減、さらに燃費改善や荷痛みの削減を実感。

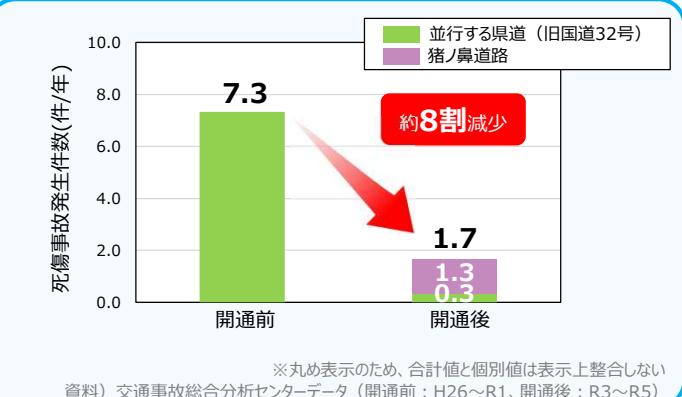
＜急カーブ箇所と事故発生箇所の位置＞



＜急ハンドル発生回数の変化＞



＜死傷事故件数の変化＞



【物流事業者の声】

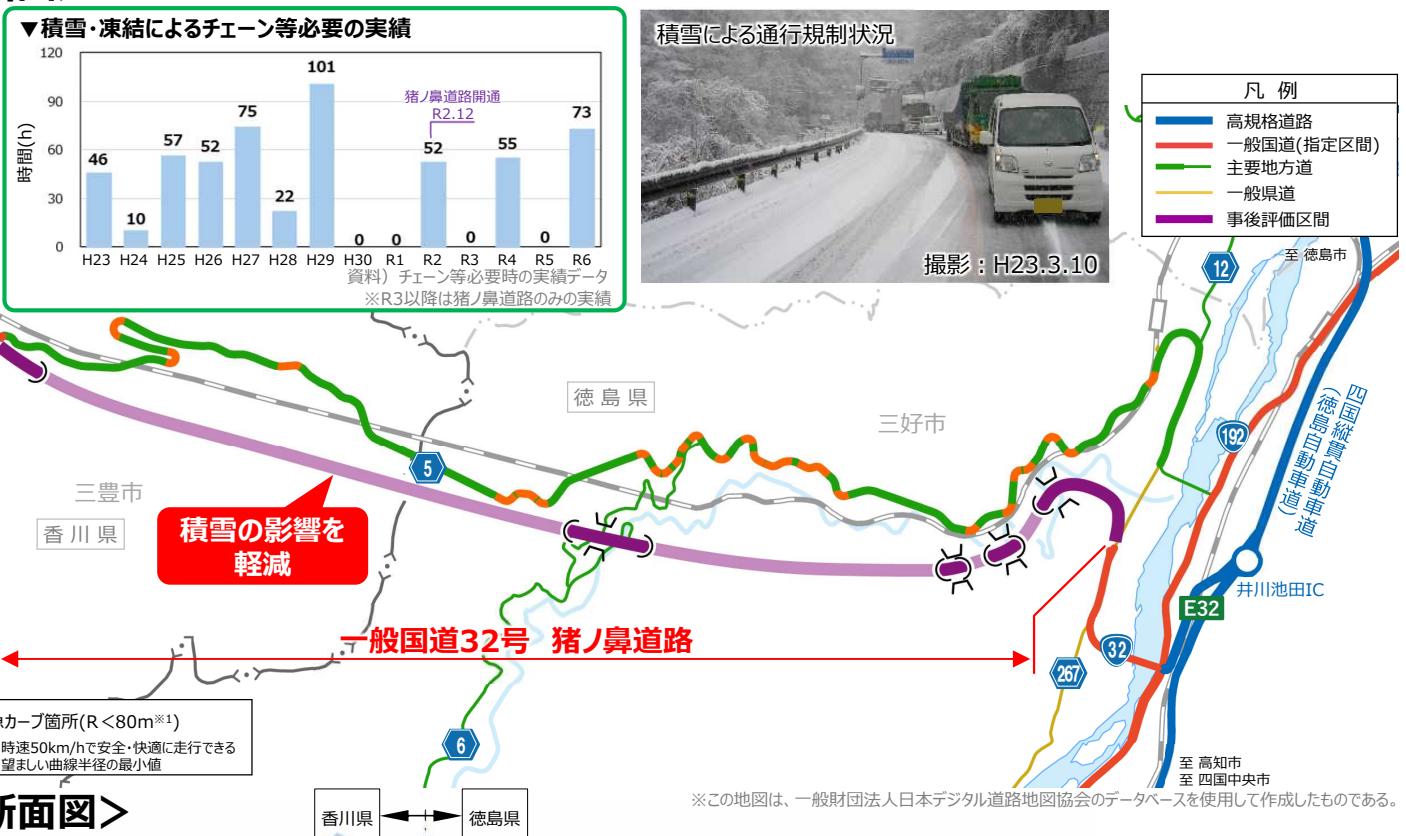
- 猪ノ鼻道路は、前方の見通しが良く、一定速度でスマーズな運転ができるため、ドライバーの安全性の確保や運転負担の軽減、また燃費改善が図れている。
- 猪ノ鼻道路は、ほぼ直線の道路なので安定して運搬できるため荷痛みの件数を削減できている。
- 猪ノ鼻道路の利用回数が多いこともあり、所要時間の短縮が、労働時間の改善に繋がっている。



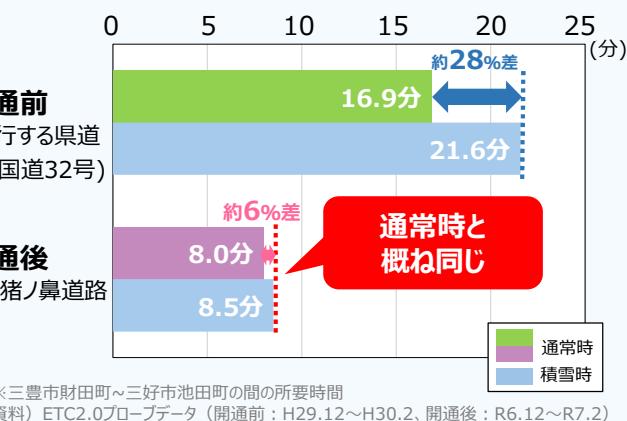
4. 事業効果の発現状況（3）冬期における通行障害の軽減

- 猪ノ鼻道路の8割がトンネル区間のため積雪の影響を回避するとともに、チェーン等必要時においても走行への影響が少なく、積雪時の所要時間は通常時と大差なく安定した走行が可能。
- 物流事業者は、積雪による影響が少なくなることでドライバーへの安全性の向上、経路変更することなく目的地への遅延が無くなつたことを実感。

＜平面図＞



＜積雪時における所要時間差の変化＞



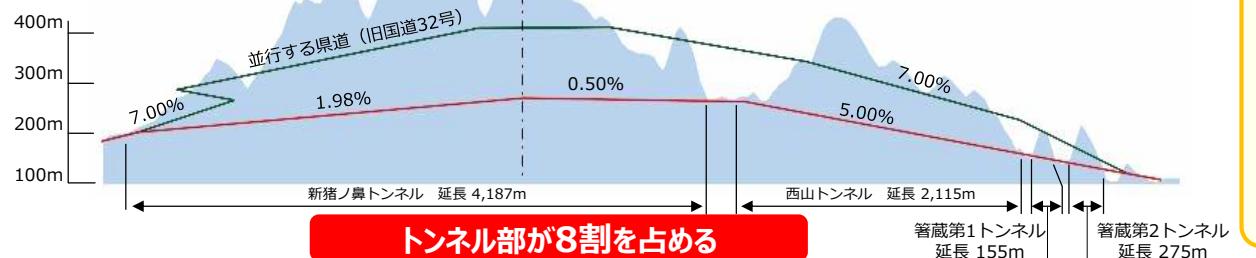
【道路利用者の声】

- ・徳島市への通勤に旧国道32号を使っていたが、凍結や積雪の影響で立ち往生や困ったことが数えきれないくらいあつた。
- ・トンネルができると気象条件に左右されることなく安心して通行できるようになり、最初に走った時の爽快感は今でも忘れていない。



資料) Webアンケート調査(R7.8) 自由意見

＜縦断面図＞



【物流事業者の声】

- ・猪ノ鼻道路の大半がトンネル区間のため、積雪時やチェーン必要時において運行への影響が少くなり、運行経路を変更することなく目的地への到着が遅れることも無くなつたことを実感している。
- ・積雪時に急カーブや勾配が多い区間を走行する必要が無くなつたので、ドライバーへの運転の大きな負担なく安全性を確保でき助かっている。

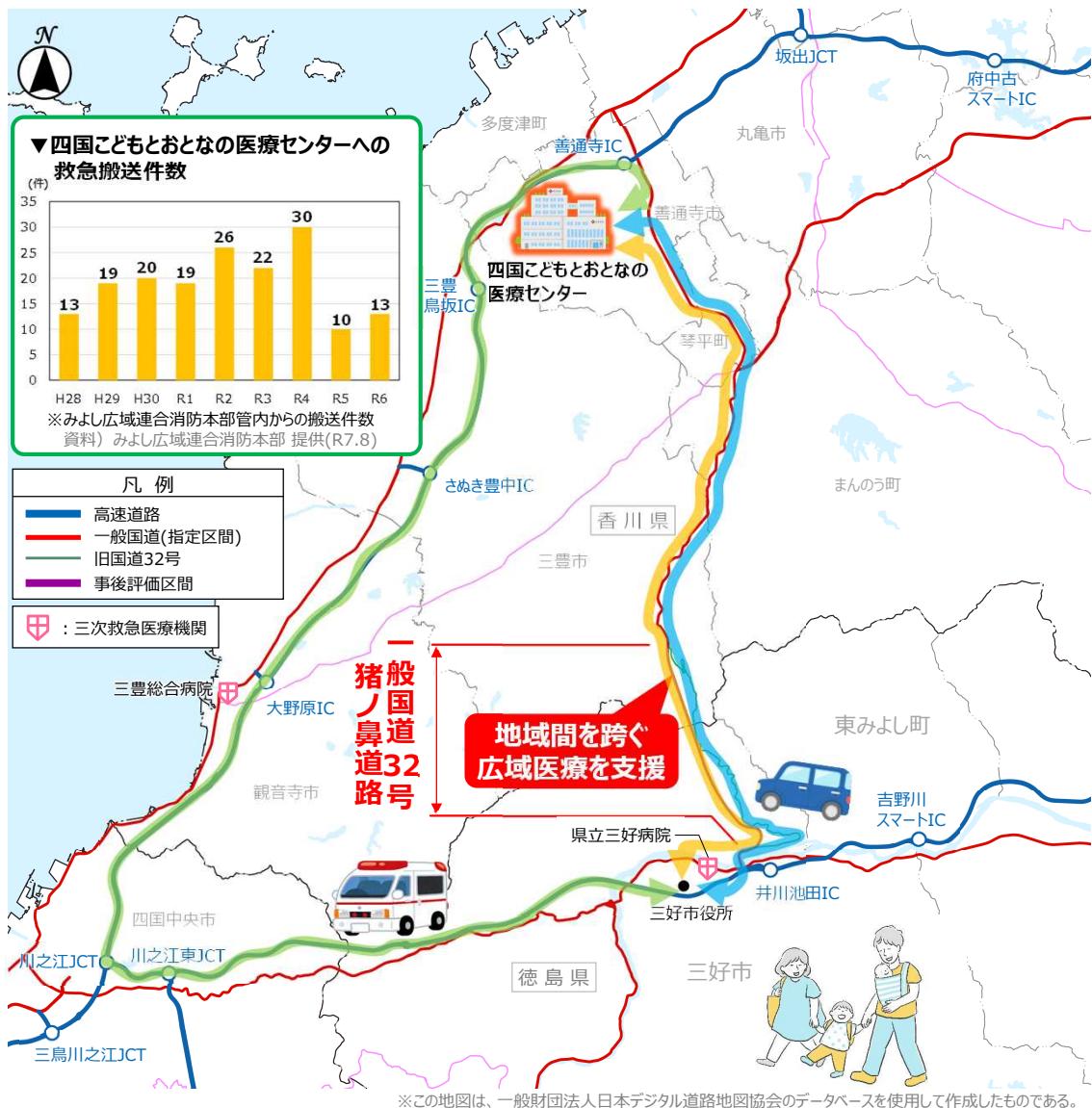


資料) ヒアリング調査結果 (R7.8)

4. 事業効果の発現状況（4）広域医療の支援による安心感を確保

- 急カーブを回避する新たなルートの形成により、四国で唯一の小児救急救命センターである「四国こどもとおとの医療センター」への所要時間が約10分短縮し、地域住民の約7割の方は、通院等しやすい道路が整備され安心して子育てできる地域になったことを実感。
- 消防関係者は、搬送時間が短縮されるとともに、より安全な救急搬送できる環境を実感。

<「四国こどもとおとの医療センター」への経路>



<所要時間の変化>

▼三好市役所～四国こどもとおとの医療センター

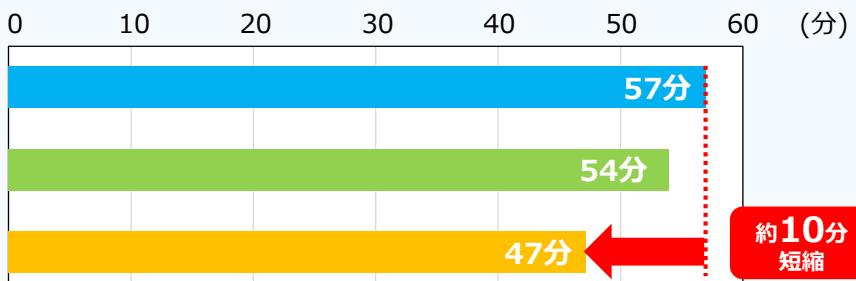
開通前

並行する県道
(旧国道32号)

高速道路

開通後

猪ノ鼻道路



【地域住民の声（三好市・東みよし町）】

▼「四国こどもとおとの医療センター」へ早く到着できるようになり、子供を安心して育てられる地域になったと思いますか。



- 猪ノ鼻道路の開通前は、冬季の路面凍結が心配で通院をためらうこともありました。
- 開通後は、所要時間の短縮や運転のしやすさに加え、雪の影響もトンネルで少くなり、安心して通院・面会できるようになりました。



資料) ヒアリング調査結果 (R7.8)

【消防関係者の声】

- 子供を救急搬送できる医療機関へ行きやすくなったことで、地域の人たちの安心に繋がっていると思います。
- 猪ノ鼻道路開通前の救急搬送時は、交通量の多い高松自動車道を使っており、一般道と比べて高い速度で走行することになるため、より一層の注意が必要で負担が大きかったが、開通後は搬送しやすくなり、所要時間も短縮され助かっています。



資料) ヒアリング調査結果 (R7.8)

4. 事業効果の発現状況（5）

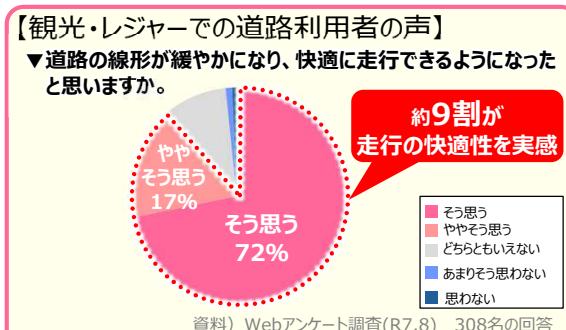
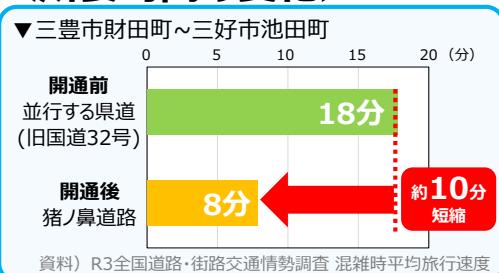
地域間の連携強化を支援

- 休日の交通量は、開通前と比べて乗用車等（小型車）による利用が約3割増加。観光・レジャー目的の道路利用者の約9割の方は、並行する県道（旧国道32号）と比べて快適に走行できることを実感しており、地域間の交流促進に貢献。
- 通勤・通学の道路利用者の約6割の方は、快適に走行できることを実感しており、通勤利便性の向上に貢献。

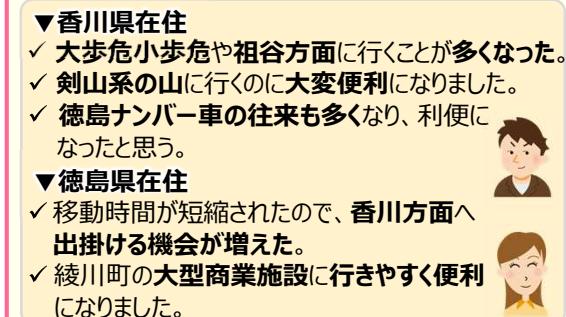
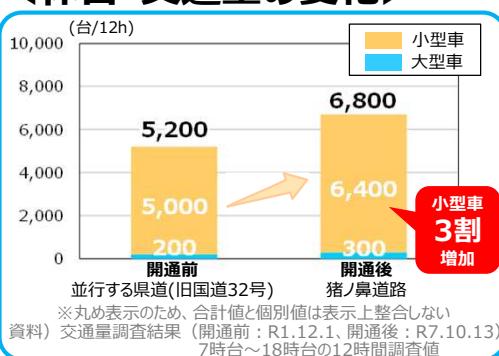
＜観光圏と主要観光地の位置＞



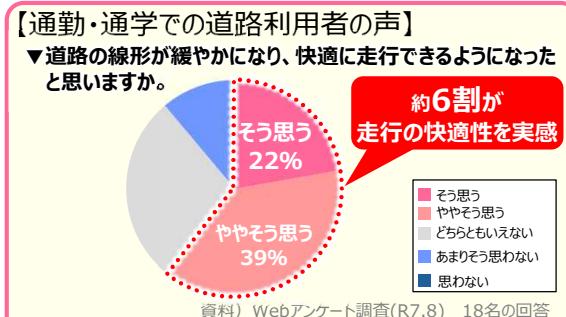
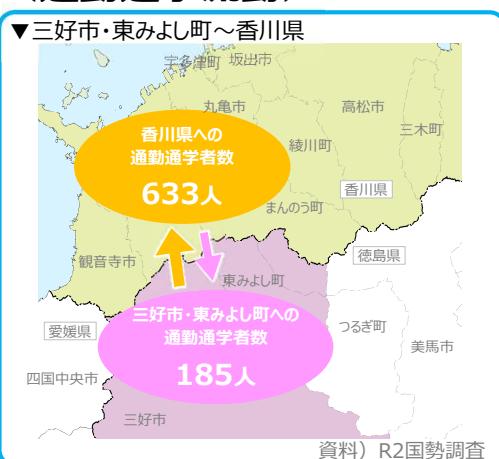
＜所要時間の変化＞



＜休日・交通量の変化＞



＜通勤通学流動＞



- 通勤が楽になりました。
- 所定時間を把握しやすくなりました。
- 天候による通行止め等が減り、通勤の不安が解消された。

5. 対応方針（案）

■ 今後の事業評価の必要性及び改善措置の必要性

- 猪ノ鼻道路の完成供用により、「事前通行規制区間の回避」「線形不良区間の解消」「冬期の通行障害の軽減」「広域医療の支援」「地域間の連携強化を支援」など、猪ノ鼻道路の整備目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事業評価および改善措置の必要性はない。

■ 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

- 事業前・事業後の整備効果に関して統計指標、ヒアリング等を用いて、整備効果の確認が出来ている。
- 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は見られない。